

# 就職活動生の自己探索による 気づきに関するプロセス研究

～メタ認知的観点からの検討～

国際文化研究科 国際文化専攻  
臨床心理学研究分野 博士前期課程  
2022年3月修了

古川佳苗

主査 久保田進也 副査 三國牧子 小林純子

## 問題

現代の大学生の就職活動(以下、就活)の問題として、早期離職の問題が依然としてある。また、就活への支援として、大学等で就活生に向けた自己理解支援が実施されているものの、就活生がそのサービスについて上手く活用出来ていない現状がある。そのため、益々独りよがりな自己分析を促進してしまう可能性が推測される。このことから、就活が上手くいかない就活生は、目先の内定を得ることだけに集中し、将来のキャリア構築まで見据えた進路選択がなされていないと推察される。以上のことから、「将来のキャリア構築まで見据えた進路選択」を行うためには、物事を俯瞰的にみる“メタ認知”が非常に重要であると考えられるが、この視点からの研究は非常に少ない現状にある。

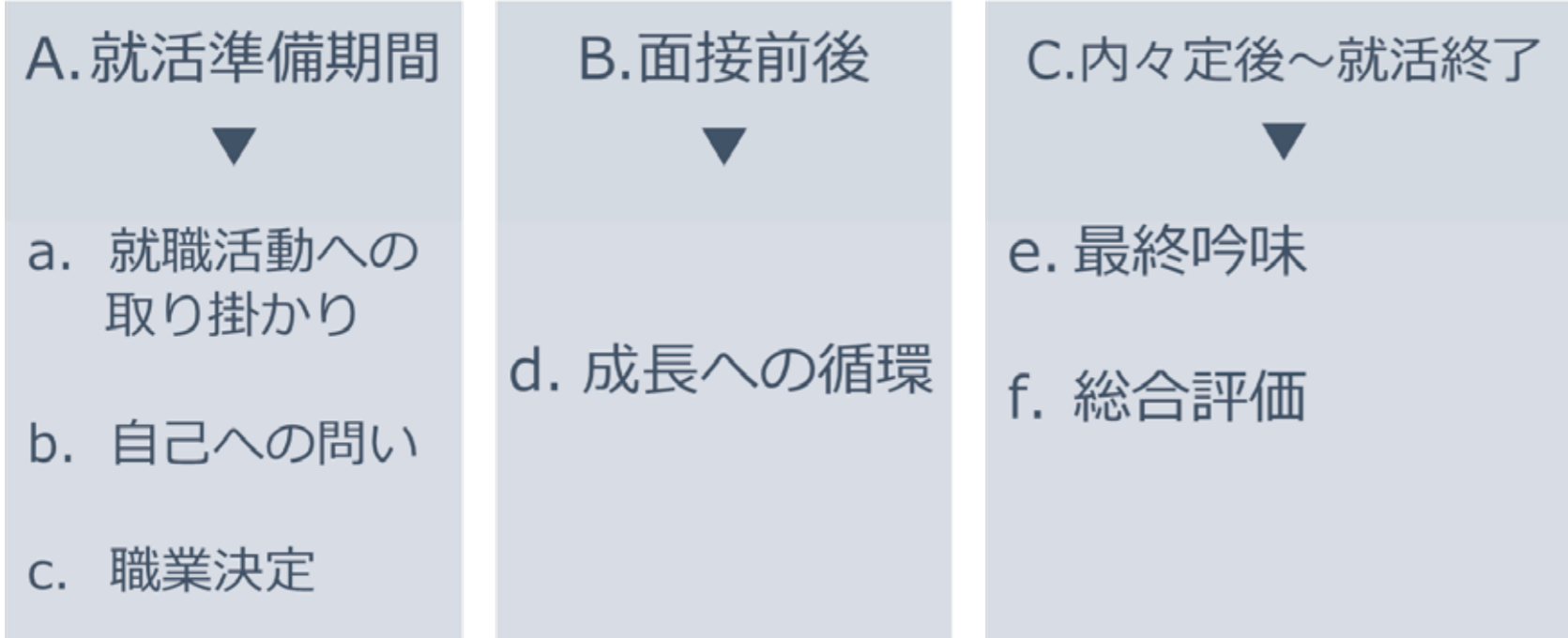
## 研究目的

本研究では、就活をある程度納得して終了した大学生を対象とし、就活生の自己理解を促進するメタ認知的観点の重要性について検討する。就活のプロセスの中で体験したメタ認知的要因となりうる“自問”や“気づき”の体験を包括的に整理・分析し、現在の就活生の実情に則した、より良い支援の在り方についての検討を行っていくことを目的とする。

## 研究概要

分析方法は、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)に準じた方法を用いて、インタビューの逐語から、分析テーマ「就職活動生の自己探索による気づきに関するプロセス研究」を基に概念を生成した。次に、生成した概念からカテゴリー、コア・カテゴリーを生成し、最終的に分析テーマに即したストーリー・ライン、結果図を作成した。

### ▶就職活動生の自己探索による気づきに関するプロセス



### ▶就活が困難な学生の支援について

- 自分史の振り返りで逆にいき詰まることを踏まえた上で  
 自分史を振り返る自己分析ツールを推奨する必要がある
- 就職活動場面におけるメタ認知的知識に誤りがある場合  
 就職支援センター等の就活における指導者等を獲得し、共に就活を進めていくことが重要
- 就活は見通しの立ちづらさが懸念点として挙げられる  
 就活生が就活全体に関する見通しを持てるよう信頼できる他者と目標を立てるといった作業が望ましい

## 成果・まとめ

- 分析の結果、38個の概念から19個のカテゴリー、6個のコア・カテゴリーを生成し、コア・カテゴリーを、A「就活準備期間」、B「面接前後」、C「内々定後～就活終了」の3つの段階に分類した
- 調査協力者は、メタ認知的知識・メタ認知的活動を上手く機能させていることが推察され、うまく機能させたメタ認知的要因が明らかになった
- 今後の課題としては、就活におけるメタ認知の尺度作成を検討すること等が挙げられた



## 指導教員コメント

企業の現場でも、「俯瞰的に見る」などメタ認知的機能を働かせて仕事に取り組むことが推奨されます。今回の研究では、自身の行った就職活動に納得している就活生は、課題に直面した際に、メタ認知を上手に機能させ、自己理解を深めたり、信頼できる人に相談するなどの方略を用いていることが明らかになりました。今回の研究は、今後、新たな就活支援の方法として、メタ認知という観点をを用いて支援できる可能性を示唆しています。

久保田進也